

**生体防御医学研究所**

I	研究水準	.....	研究 17-2
II	質の向上度	.....	研究 17-2

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの平均英文原著論文数は、3.3件で、その11%がインパクトファクター（IF）10以上の学術誌に掲載されている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年平均60件（4億5,800万円）で教員一名当たり1,060万円となり、採択率は過去4年間を通じて平均が57%となっている。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成16年度以降で21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム各1件、共同研究が31件、受託研究が91件となっているほか、総長発意による戦略的教育研究拠点デジタルメディスン・イニシアティブと次世代研究スーパースター養成プログラムを実施しており、活発な研究活動が展開されていることは、優れた成果である。

以上の点について、生体防御医学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生体防御医学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

### 2. 研究成果の状況

#### 期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、発生学、機能ゲノム科学、プロテオミクス、構造生物学を主とするポストゲノム科学を推進し、特に感染症・免疫アレルギー学及び脳神経疾患の領域で国際的に評価の高い研究成果を上げている。相当数の学術論文が高いIFの国際一流専門誌に掲載され、かつ卓越した業績と認められたことは、優れた成果である。

以上の点について、生体防御医学研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生体防御医学研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

## II 質の向上度

## 1. 質の向上度

### 相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

